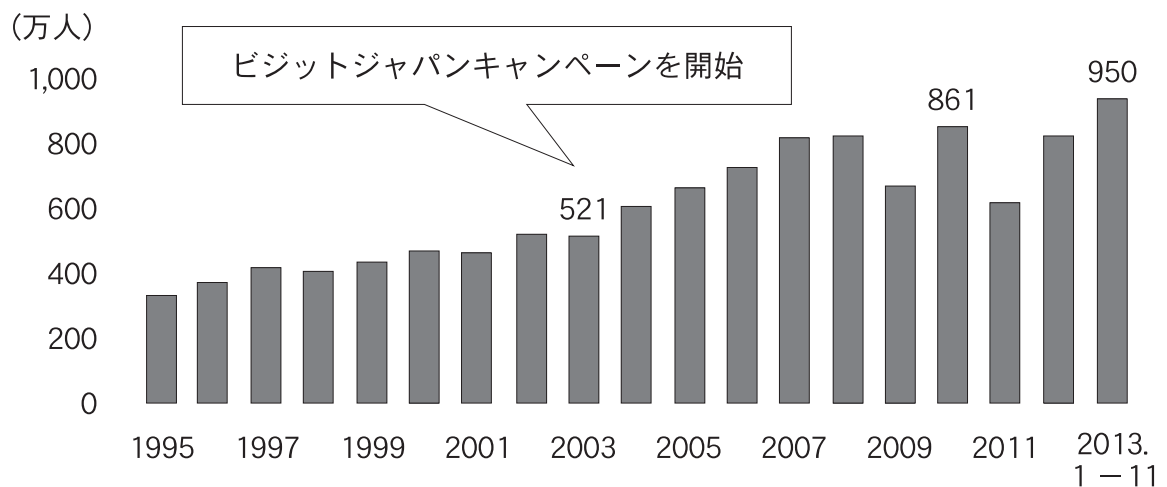


訪日外客数 2030年には2400万人に

訪日外客数の推移

- 2013年は過去最高の訪日外客数を記録した2010年を抜き、1,000万人超に
- 2004年からは急速に拡大、過去10年余りで2倍の規模に成長



※2013年1-11月の訪日外客数は速報値
資料：JNTO



23回目を迎えた旅行動向シンポジウム

公益財団法人日本交通公社(志賀典人会長)は昨年12月19日、「第23回旅行動向シンポジウム」を東京都内で開き、「国内・訪日旅行市場の動向と展望」を発表した。2013年に1千万人に到達した訪日外客数は30年には2,440万人になると予測。日本人の旅行量は人口減で落ち込むが、これを訪日外国人の旅行が補うと見ている。外国人客は訪日回数が増加するにつれ、地方への訪問率が増えるという。ここでは同シンポジウムで示されたデータの一部を紹介する。

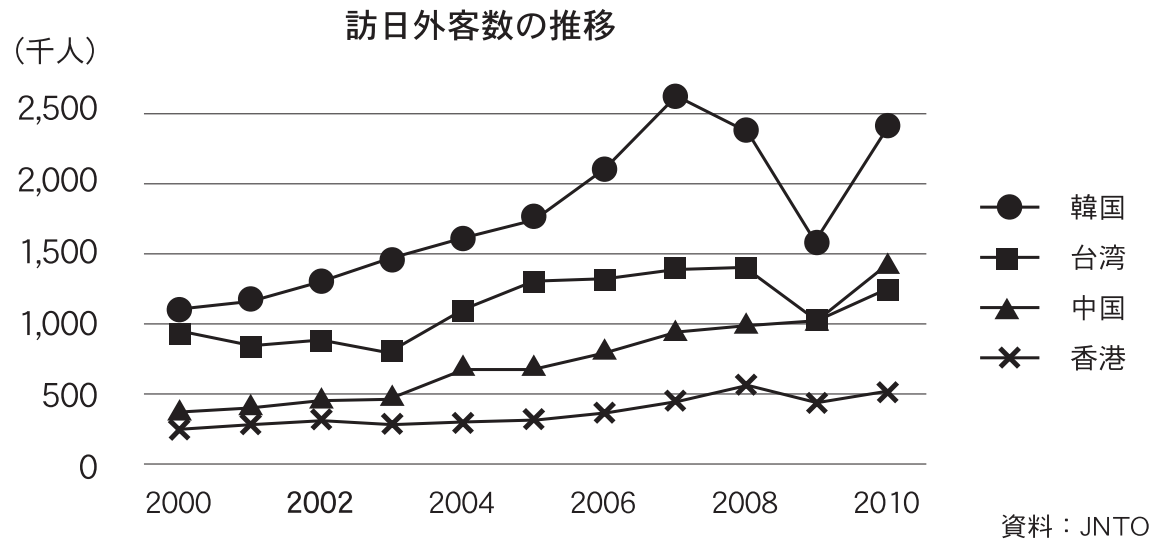
(公財) 日本交通公社

国内・訪日旅行市場を展望

訪日旅行市場拡大の要因

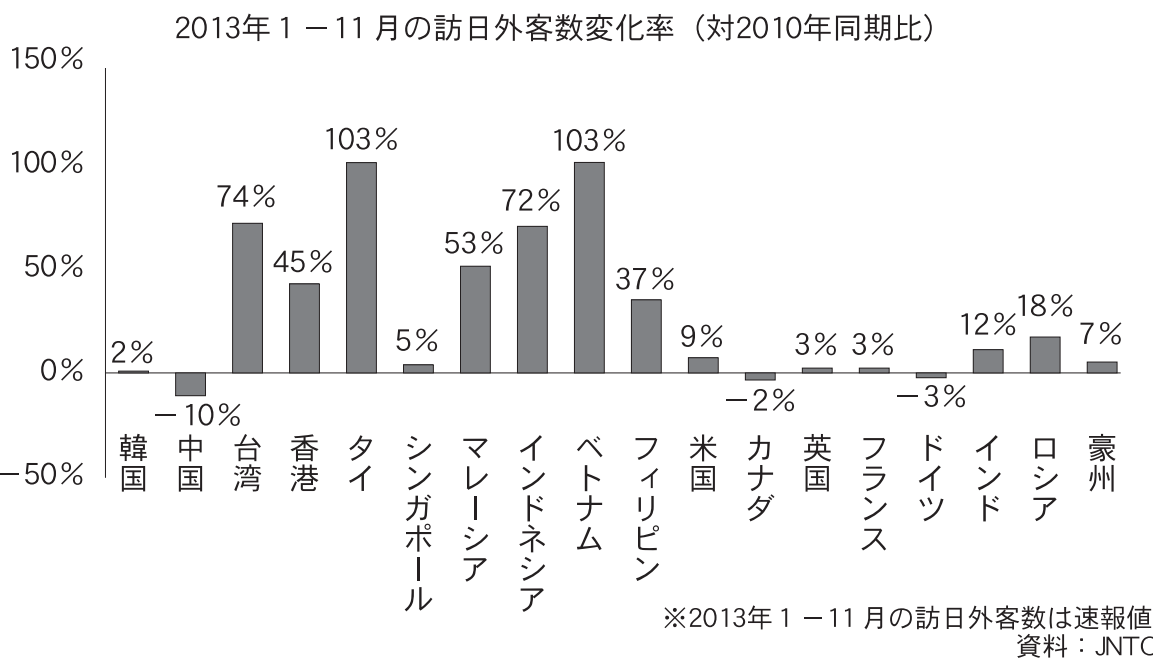
アジア市場の急成長

- 経済成長、休暇制度の充実といった発地側の要因に加えて、ビザ緩和策が訪日外客数の成長を後押し

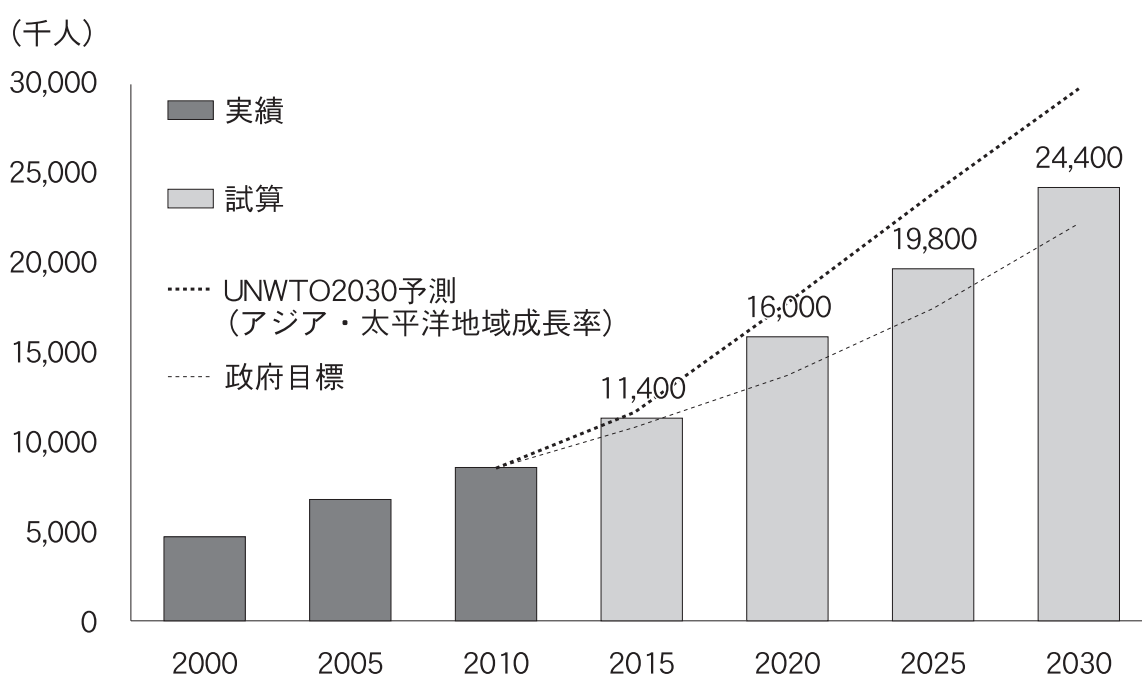


震災からの回復

- 台湾、香港と東南アジアが大幅増、欧米は横ばい

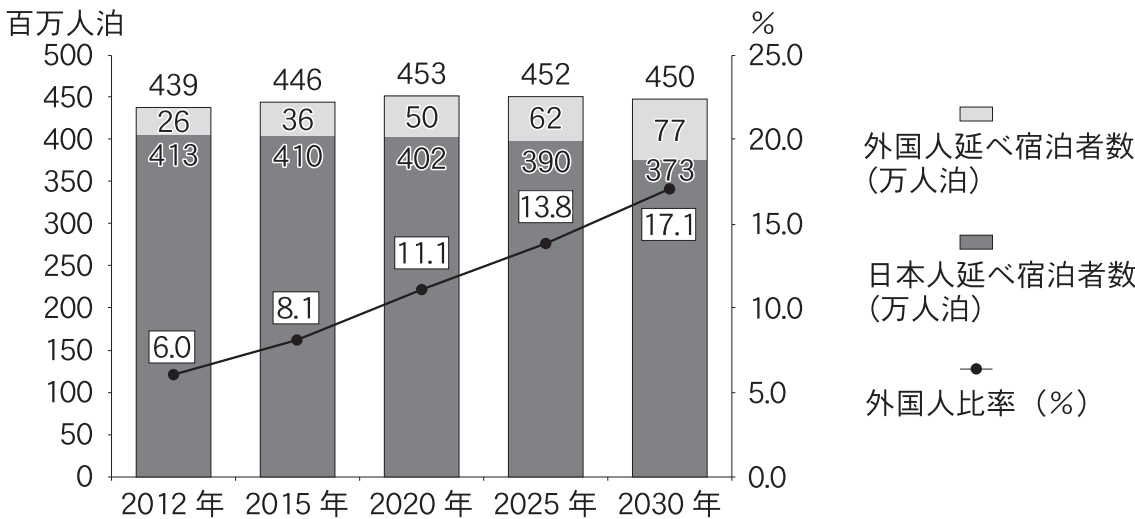


訪日外客数予測



将来の延べ宿泊数の試算

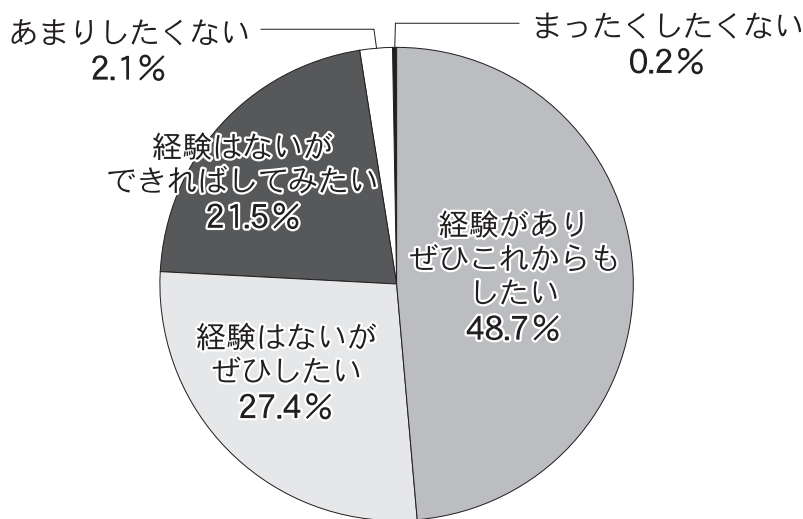
- 人口減による日本人旅行量の落ち込みを、インバウンド市場が相殺する形で進行。
- ※・日本人の将来宿泊観光旅行回数の試算値の伸びを2012年の延べ宿泊数に適用。
- ・2012年の訪日外客延宿泊数・訪日外客数比を将来推計に使用。



資料：「平成23年度観光の実態と志向」(公社)日本観光振興協会、「日本の地域別将来推計人口 平成25年3月推計」国立社会保障・人口問題研究所、「宿泊旅行統計」観光庁、「訪日外客数」JNTO等を基に塩谷推計。ただし、2015年以降の外国人延べ宿泊者数の推計には、相澤の訪日外客数推計値を利用(2030年2,440万人)。

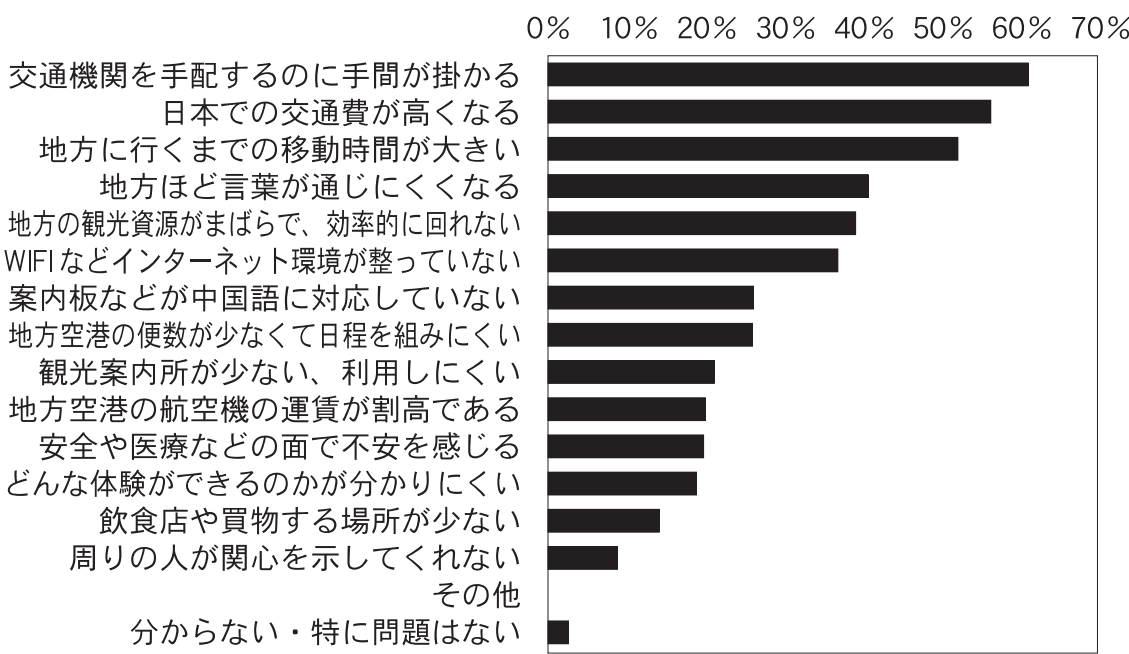
地方を訪れたいという比率

- フリープランまたはFITで日本を再訪する意向がある台湾人旅行者のうち、約半数が地方訪問経験があり、残りの半数近くが地方訪問を希望



資料：公益財団法人日本交通公社「台湾旅行者調査」

地方を訪れる際のネック



資料：公益財団法人日本交通公社「台湾旅行者調査」

人口減による日本人旅行量の落ち込みを補う